トゲオニソテツの開花について

林　　良　之

トゲオニソテツ（*Encephalartus ferox* Bertol. f.）はソテツ科ザミア亜科に属し，南アフリカに分布する。雌雄異株で，羽状葉を放射状に出し，小葉の縁には鋭い刺がある。当園のサボテン温室には，昭和53年11月に２株を地植えし，育成・展示しているが，61年９月，２株ともほぼ同時に，１株は雌の球花を，もう１株は雄の球花をつけた。

開花時の株の大きさは，雌株が幹高21cm，幹径37cm，雄株が幹高18cm，幹径21cmで，羽状葉の長さは両者とも１～1.5mであった。

雌株の球花は鮮やかな朱色で，先端の平らな四角錐状の鱗片（大胞子葉）がらせん状に並び，長径40cm，短径21cmの楕円形。雄株の球花は２個生じ，一方は長径16cm，短径10cm，もう一方は長径11cm，短径８cmの松かさ状で，長さ10cmほどの柄がある。雄球花は先端部から徐々に開き，鮮片（小胞子葉）の下面にある多数の葯からクリーム色の花粉を大量に出していた。

雄花は10日後には枯れたが，雌花はそのままの状態で残り，翌年２月，結実して鱗片ごと地面にこぼれ落ちているのが見られた。

赤色の種子は長さ4.5～５cmの長楕円形で，各鱗片に２個ずつはさまっており，指でつぶして柔らかい肉質の外種皮を取り除くと，長さ２cmほどの楕円形の硬い部分が現れる。種子はほとんどがしいなで，比較的充実したものを選んで播種してみたが，発芽には至らなかった。

雌株の球花

雄株の球花

こぼれ落ちる種子

大胞子葉と種子